



一般社団法人 電波産業会
Association of Radio
Industries and Businesses

No.1433 2025年1月14日



新年のごあいさつ

一般社団法人電波産業会
会長 島田 太郎

あけましておめでとうございます。年頭にあたり、一言御挨拶を申し上げます。

会員の皆様及び総務省をはじめとする関係の方々には、平素より当会の事業に対し格段の御支援と御協力を賜りまして厚く御礼申し上げます。お陰様で昨年も当会の業務のいずれも順調に推進することができました。改めて深く感謝いたします。

当会を取り巻く環境に目を向けますと、無線通信技術の進展に伴い、電波の利用があらゆる社会経済活動において普及・進化してきており、これまで以上に電波をデジタル社会の成長基盤として、ビジネスチャンスの一層の拡大に繋げることが重要となっています。昨年、総務省において取りまとめられた「デジタルビジネス拡大に向けた電波政策懇談会」最終報告において、電波利用産業におけるワイヤレス活用が進展した場合の成長シナリオでは、製造業及びサービス産業などで実質GDP成長率が長期的に押し上げられ、我が国全体としての実質GDPについて2030年時点で約22兆円、2035年時点で約53兆円の増分が見込まれるとの予測が示され、電波産業の拡大が大きく期待されます。

また、本年はBeyond 5G/6G標準化に向けたITU-Rや3GPP等における議論の盛り上がり、5G/ローカル5Gの更なる普及とBeyond 5G/6Gの推進に向け当会が事務局を務めるXGモバイル推進フォーラム(XGMF)の取組の本格化、無線LANの更なる高度化、自動運転などV2Xの推進、地上テレビジョン放送の高度化のための標準規格の策定などが期待されております。

産業界や国民生活のニーズに基づくこうした新しい電波利用システムの開発、規格化、普及活動、さらにはコンサルティング、普及啓発活動等は、総務省が取り組むWX推進戦略アクションプランが目指すワイヤレスによる創造性と多様性のある社会変革に大いに貢献できるものと信じており、本年5月に創立30周年を迎える当会としては、一層精力的かつ迅速にこれら事業活動を推進していきたいと考えます。

会員の皆様の一層の御支援、御協力を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、会員の皆様のますますのご発展とご多幸を祈念いたしまして、新年の御挨拶といたします。

令和7年元旦

ARIBの動き

2024年度 Mobility & Safety Communications セミナーを開催

ARIBが事務局を務めるITS情報通信システム推進会議（以下ITSF）は、2024年12月24日に国際対応専門委員会主催による「2024年度モビリティと通信に関する国際動向と推進会議活動報告会 - Mobility & Safety Communications (MSC) セミナー -」を明治記念館で開催しました。

1. セミナー名称：
「2024年度モビリティと通信に関する国際動向と推進会議活動報告会」
- Mobility & Safety Communications セミナー -
2. 日 時：2024年12月24日（火）14時～17時45分
3. 場 所：明治記念館
4. 主 催：ITSF 国際対応専門委員会
5. 参加者数：約100名

開催にあたり、総務省総合通信基盤局電波部移動通信課長の小川裕之氏のご挨拶を、総務省移動通信課新世代移動通信システム推進室長の影井敬義氏が代読されました。その中で、日本におけるITS関連電波利用の紹介と今後の協調型自動運転への電波・通信活用への期待、物流・地域交通における課題と政府全体の様々な目標と取組、総務省における5.9GHz帯V2Xに向けた周波数割当、インフラ整備基金などの取組、諸外国に対する日本の取組の発信や海外関係者との連携の重要性等とともに、これらに向けた連携・支援を引き続きお願いしたい、とのお言葉をいただきました。



総務省 影井氏

セミナーは、ITSF国際対応専門委員会専門委員長の山本武志氏の司会進行のもと、3種類の報告から構成され、報告1として、自動運転・安全運転支援向け通信に関する関連省庁などの取組状況について3件の報告がありました。

- (1) "自動運転時代の情報通信インフラに関する総務省の取組"と題して、総務省 影井氏より、ITSや自動運転に関わる各種通信方式の概要や特徴、国際的な周波数割当状況、自動運転サービスに関する政府目標や整備事業、総務省「自動運転時代の"次世代のITS通信"研究会」などの取組状況や今後の展開予定などをご紹介いただきました。

- (2) "国土交通省道路局ITS推進室の最近の話題"と題して、国土交通省道路局道路交通管理課高度道路交通システム(ITS)推進室課長補佐の北城崇史氏より、次世代ITSのコンセプト案、自動運転に関する政府目標、一般道及び高速道路の自動運転移動サービスに求められるインフラ支援に向けた事業性検討や実証実験の概要やスケジュールなどについてご紹介いただきました。
- (3) "国内の自転車事故削減に向けた取組について"と題して、パナソニックサイクルテック株式会社先行技術開発部部長の鶴岡宏一郎氏より、自転車の国内市場動向と自転車事故比率、自転車事故削減に向けた自転車に後付け搭載可能なITS Connect車載器開発、事故防止支援機能と支援タイミング・安全啓発機能、自転車事故死傷者ゼロ社会の実現に向けたアプローチなどをご紹介いただきました。

報告 2 では、自動運転やITS無線システムを取り巻く国際動向について 3 件の報告がありました。

- (1) "自動運転の実用化に向けた国際動向"と題して、ITS Japan常務理事の白土良太氏より、欧州の動向としてULTIMOプロジェクト(バートシュタッフエルシュタイン、ドイツ)及びTRA(欧州での道路交通に関する国際シンポジウム、ダブリン、アイルランド)、米国の動向としてARTS(自動運転に関する国際シンポジウム)、中国の動向としてITS China 年次大会及び杭州での自動運転(菜鳥科技)及びITS世界会議ドバイについて試乗動画を交えてご報告いただきました。
- (2) "ITS世界会議 2024 ドバイ報告"と題して、総務省新世代移動通信システム推進室の本多出氏より、ITS世界会議の概要と日本政府・企業による展示、関連省庁による国内動向に関する講演をご紹介いただいた後、本多氏が講演された総務省主催セッションSIS67での世界各地でのITS/自動運転に向けた通信に関する議論についてご報告いただきました。
- (3) "5G Automotive Association, pioneering digital transformation in the automotive industry"と題して、5G Automotive AssociationWG6 Japan Task Forceの内野徹氏より、5GAAの概要、戦略目標と優先分野、5GAAのロードマップとユースケース、C-V2Xの定義、各地域でのC-V2Xの動向、C-V2X Directの採用に関連するNCAPの役割、衛星ベースの通信等についてご報告いただきました。

報告 3 では、ITSFにおける次世代無線通信方式の検討状況として 3 件 5 名から報告がありました。

- (1) ITU-R / AWGにおけるITS/自動運転関連の国際標準化動向について、ITSF国際対応専門委員会国際標準化推進TG主査の横山隆裕氏より、"ITU-RにおけるITS/自動運転関連の国際標準化動向"と題して、ITU-R WP5Aにおける最近の取組として、2023年に完成した報告M.2534に続く、将来ITSに関する新ITU-R報告M.[FUTURE-ITS]及びそれに対する日本における取組の入力状況が報告されるとともに、今後の提案に向けた協力をお願いが述べられました。また、"AWG向け路車協調ITSに関する寄与文書の取り組みについて"と題して、ITSF国際標準化推進TG構成員のITS Japan ITS国際展開活動SWGリーダー中島康氏より、APT(Asia Pacific Tele-community) Wireless Group(AWG)における「路車協調システム」に関する新報告の作成と日本からの提案概要、AWGでの審議状況や今後の展開について報告されました。

- (2) ITSFサステナブルITS推進委員会協調型自動運転通信方式検討WG主査の浜口雅春氏より、"自動運转向けV2Xの実証実験に向けた検討"と題して、自動運転に関する総務省や国土交通省などによる国内動向、それらに対するITSFによる取組の全体概要、個別検討事例として"新東名高速道路における自動運転トラック実証実験"に向けたガイドラインの更新や5.9GHz帯V2Xの仕様等に関する新たな実験用ガイドラインの検討状況などが報告されました。
- (3) 自動運转向け実証実験での活用を想定した760MHz帯実験用ガイドラインの改定について、ITSF700MHz帯ITS実用化専門委員会構成員の京セラ株式会社研究開発本部ITS関連研究開発部ビジネス推進部戦略企画課1係加藤勇児氏より、"自動運転通信活用ユースケース向け700MHz帯高度道路交通システムの実験用ガイドラインRC-018の改定について"と題して、高速道路における700MHz帯を用いた自動運転の実証実験に向けた高速道路用メッセージの改定について、経緯や検討状況が報告されました。また、同じくITSF700MHz帯ITS実用化専門委員会構成員のITS Japan ITSスマートポール・インフラ検討WG角真悟氏より、"一般道向け安全運転支援・自動運転支援システム実験用通信メッセージガイドラインRC-019策定について"と題して、一般道における安全運転支援・自動運転支援用の実験用通信メッセージガイドラインの新規策定について検討状況として、背景、想定ユースケース、路側機の機能と路車間通信経路、メッセージ構成、新たに追加する情報要素などが報告されました。

閉会挨拶では、ITSF企画部会長小花貞夫氏から、Road to the L4、新東名高速道路での実証実験、総務省自動運転時代の"次世代のITS通信"研究会等日本における自動運転に向けた取組が具体的にになってきたことを踏まえ、それらに対して貢献していくとともに、新技術探索、国内外関連団体との関係強化、日本がリードする形での国際標準化、これらの長期的な活動継続に向けた若手人材の参加等に対して、会員の皆様への感謝と今後の協力をお願いが述べられました。



ITSF 小花氏

当日は、ITSF関連省庁・団体、会員企業から約100名にご参加いただき、盛況のうちに終了しました。



会場の様子

ARIB 内会合（1月13日～1月17日）予定

1月15日（水）：第324回業務委員会	Web 会議併用
1月16日（木）：スタジオ設備開発部会	Web 会議併用
1月17日（金）：高度無線通信研究委員会 標準化部会	Web 会議

国際会合（1月13日～1月17日）予定

参加を予定している会合はありません。

総務省などからのお知らせ

「電波利用料の見直しに係る料額算定の具体化方針（案）」に対する意見募集 【令和6年12月20日発表】

総務省では、次期（令和7年度から令和9年度まで）の電波利用料の料額算定における考え方について、「電波利用料の見直しに係る料額算定の具体化方針（案）」を作成しましたので、令和6年12月21日（土）から令和7年1月20日（月）までの間、意見を募集しています。

[経緯]

総務省は、次期における電波利用料の見直しに関して、令和5年11月から「デジタルビジネス拡大に向けた電波政策懇談会」（座長：森川博之 東京大学大学院工学系研究科教授）を開催し、令和6年8月、同懇談会報告書が取りまとめられました。

今般、同懇談会報告書を踏まえ、次期電波利用料の料額算定における考え方について、「電波利用料の見直しに係る料額算定の具体化方針（案）」を作成しましたので、これに対して意見を募集するものです。

詳細については [【令和6年12月20日の総務省報道資料】](#) をご覧ください。

衛星基幹放送に係る周波数の使用に関する基準の一部を改正する 省令案に対する意見の募集

【令和6年12月25日発表】

総務省では、衛星基幹放送に係る周波数の使用に関する基準の一部を改正する省令案について、令和6年12月26日（木）から令和7年1月29日（水）まで、意見を募集しています。

[概要]

総務省では、「デジタル時代における放送制度の在り方に関する検討会」（座長：三友仁志 早稲田大学大学院アジア太平洋研究科教授）の下に、令和5年11月から「衛星放送ワーキンググループ」を開催し、衛星放送を取り巻く環境が変化する中で、衛星放送における課題を解決し、持続可能な衛星放送の将来像を描くべく、短期・中期にわたる諸課題について議論・検討を行ってきました。

令和6年12月に取りまとめられた「デジタル時代における放送制度の在り方に関する検討会 衛星放送ワーキンググループ取りまとめ」において、4K放送に使用されている映像符号化方式である圧縮効率の高いHEVC方式を2K放送に使用することで、限られた周波数帯域をより効率的に使用することが可能となること、また、同じ映像符号化方式を使用することで、2K放送と4K放送が同一の中継器を使用することができるようになること等の理由により、HEVC方式を2K放送に使用する選択肢を設ける制度整備を実施することが望ましいとされています。

今般、これを踏まえ、衛星基幹放送に係る周波数の使用に関する基準（令和2年総務省令第9号）の一部を改正する省令案について、意見募集を行うものです。

詳細については [【令和6年12月25日の総務省報道資料】](#) をご覧ください。



Association of Radio Industries and Businesses

ARIB NEWS
発行所

一般社団法人 電波産業会

☎100-0013 東京都千代田区霞が関一丁目4番1号 日土地ビル11階
TEL 03-5510-8590 FAX 03-3592-1103
<https://www.arib.or.jp> E-mail arib_news@arib.or.jp